



## 「令和は小諸市の時代！」とするために

小諸市長  
小泉 俊博

令和元年度は、私が市民の皆様から市政運営を託された市長任期1期目の最終年度となります。これまでの3年間の取り組みを踏まえ、今後も引き続き市民の皆様への先頭に立ち、小諸市の発展に全力で取り組んでまいり所存です。今後も引き続きご理解ご協力をお願いします。

### 時代は平成から令和へ

さて、改元がなされ平成から令和へと時代が変わりました。4月1日に新元号が発表された際、首相は「厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め、令和に決定した」と語りました。

早速親しい先輩から「いよいよ小諸の時代が来たぞ！小諸市では市章が梅花で、梅花教育を教育の基本としている。」とのメールが届きました。

平成時代の小諸での主な出来事は、広報こもろ5月号に記されていますので触れませんが、過去を振り返ってみても、明治・大正・昭和と人々が輝き、魅力のあったまちから、平成の時代は少子高齢化・人口減少など様々な要因もあり、小諸にとって厳しい寒さに耐えざるを得ない30年だったと感じている人も多いかもしれません。



小諸市市章  
5つの花びらは隣接する5村が小諸町を中心に融和し、合併により市となった姿を表しています。

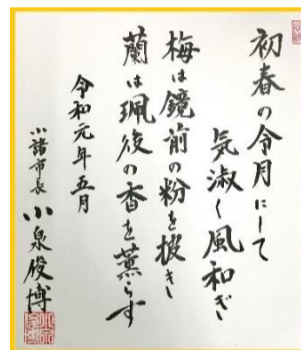
### 自らが地域を良くしていこうという自負心を持ち行動する市民に期待

それではいかにして「令和は小諸の時代！」とするか、即ち「魅力あるまち」にしていくために何が必要か私の考えの一端を記してみたいと思います。

まずは小諸の市民が当たり前と思っている先人たちの遺してくれた歴史・文化・自然などの財産が、実はどんなに素晴らしいのかを知り、自らのまちを誇りに思うこと（郷土愛の醸成）が必要だと考えます。

もちろん誇りに思うことを強制することはできませんが、少なくとも自らのまちを知ることで小諸の良いところを新たに発見できるかもしれません。

これまでの3年間、情報戦略やシティプロモーションを行う中で、市外の人にメッセージを届けるだけでなく、むしろ市民に向けて小諸の良いところを知ってもらうことを意識し、信し続けてきました。お陰様で多くの市民の方々から「最近新聞やテレビで小諸が取り上げられる機会が増えて嬉しい」



「令和」の典拠は「万葉集」の巻五、梅花の歌三十二首の序文から

「小諸の良いところがこんなにあったなんて知らなかった」といった声がよく聞こえるようになりました。

さらに市民一人一人が自らが関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心をもって行動することが必要だと考えます。

行政として「魅力あるまちづくり」を進めていくには、財政的にも人材的にも課題も多く、限界があります。実際に行政だけの力では解決できない課題も多くなっています。

これからは行政でなければできないこと、行政がやるべきことのほか、行政と市民が協働して課題を解決していくこと、市民が主体となって進めていくことが必要不可欠になります。

全国的に見れば財政的に余裕もなく、さしたる資源もない自治体が市民のチカラによって注目を集め、輝いている例があります。

市民が主体となって経営手法を取り入れたまちづくりを行い「稼ぐまち」として賑わっている岩手県紫波町、子ども医療費の助成などの各種手当でも近隣地域並みであるにもかかわらず、子育て世代の市民活動により、人口が増加した流山市などが代表的な例です。

小諸市においても市民のチカラが活かされている例があります。市立図書館などは市民が積極的に参加し、行政と幾多の会議を重ね、市民に必要な図書館像と運営を協働した結果、利用者が多く、サービスの行き届いた図書館になりました。

また、ある地区の行政懇談会では2年前から区長さんたちが口々に「行政に要望するだけでなく、自分たちができること、やれることを出し合い、共有し、実践しよう」と提案型の懇談会を開催し、実践してくれています。

さらに最近では3月に開催された相生町商店街による「100円商店街」や「まちなかマルシェ」があげられます。行政に一切頼らず自らが立ち上がり、いかに稼げる魅力的な商店街にしていくかの研究と実践にチャレンジされています。



これらすべてに共通することは、市民が当事者意識をもって、自分たちの住む小諸を良くしていこうと立ち上がっていることです。

このように少しずつではありますが、確実に市内のあちらこちらに「魅力あるまちづくり」に対する新たな芽生えや、力強い息吹が実感できるようになってきました。一人でも多くの市民に自分の能力や経験を活かして、誰かの役に立つとか何かを支えているという実感をもって行動していただけるとまちも自ずと活気づきます。

私も市長として、地域を良くしていこうとする人材を発掘したり、その人の魅力や経験を発揮してもらうための場やきっかけを作るなど市民のチカラを引き出すための土台づくりを進めていきたいと思えます。

市民の皆さま「令和は小諸の時代！」を合言葉に、ともに「魅力あるまち」を実現していくためにどうかチカラを貸してください！

## Topic1

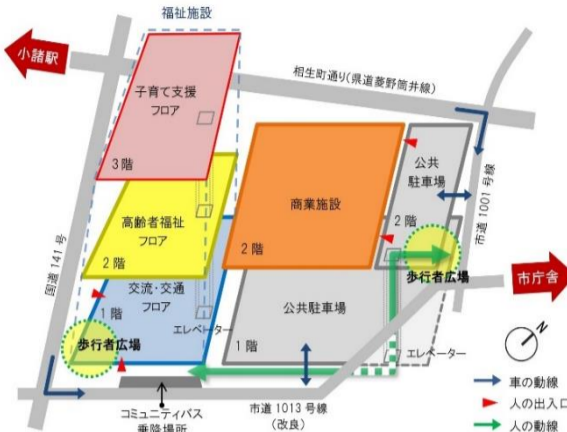
### 複合型施設基本計画の策定及び商業テナントの決定

一昨年12月に公表した「複合型中心拠点誘導施設（以下、複合施設）整備構想」について市内各地で市民説明会を重ね、多極ネットワーク型コンパクトシティの理念の下、公共交通システムの運用改善を進めるとともに、複合施設整備事業を進める際の施設機能や整備の骨子といった基本事項を定めた「施設基本計画」を昨年9月に公表した。当該施設は今後進展する高齢化社会や子育て支援などに対応するため、各地域の生活拠点と、利便性の高いまちを形成する中心拠点（中心市街地）のネットワーク化を図り、交通結節点となる中心市街地において、日常生活に欠かすことのできな

い施設の集約を図るもので、全市民を対象とする施設となる。

商業施設部分については市内に本社を置き、小売業として県内トップのブランド力を持つ株式会社ツルヤ様の出店に向け、協議を行ってきた結果、4月に出店が正式に決定した。

今後、周辺道路整備を含め一日も早い完



## Topic2

### 子どもの福祉医療費の無料化

子育て家庭の支援策として、県内の他市に先駆けて、一昨年10月から高校3年生に該当する年度末までの医療費を無料化

（但し、レセプト代は負担。医療費は受診者が一旦支払い、後日当該医療費の支給を受ける方式）。

さらに、昨年8月からは、病院等の窓口でレセプト代500円のみで医療を受けられる相物給付方式を実現した。

【現物給付方式】

子どもの福祉医療費の給付方式が変わりました

病院等の窓口で500円を支払うことで医療を受けることができます。



## Topic 3

### 起業家の発掘・支援

夢を持つ若者やキャリアを持ちながら活かしきれていない女性などの起業家を育成する試みとして県内で初となるビジネスコンテストを開催。応募のあった21組からビジネスプランの作成などの研修を行い、7組のファイナリストからグランプリ受賞者を決定（当該受賞者は全国大会でもグランプリを獲得）。

今後も商工会議所や協賛企業・金融機関などの協力を得て、地域資源を活かした起業家を発掘し、支援体制づくりを構築し、活性化を図っていく。



### 小泉市政の3年目を振り返る

## Topic 6

### ふるさと納税2億円を突破

選挙公約で「ふるさと納税1億円」を目標に掲げたが、平成30年度は情報戦略などの効果もあり、この目標を大幅に上回る2億2900万円を実現。全国の市町村の平均的な寄付金額が約1億円である中で大健闘といえる。

特に高峯聖地公園の合葬墓地埋葬権の全国的な話題や三岡の桃などの返礼品が好評を博したことが功を奏した。

今年度も4月からの1か月半で、既に5,000万円以上の寄付金が集まり（昨年同期比約3500万円増）、順調に推移している。

ふるさと納税の受入金額と件数



## Topic 4

### 水道事業、図書館運営の委託

小諸市を含む全国の水道事業体は、老朽化した施設の更新、人口減少に伴う料金収益の減少等様々な課題を抱えている。小諸市では民営化ではなく、市と民間企業の共同出資による公民共同企業体「(株)水みらい小諸」へ水道事業の施設の維持管理、料金徴収等について、本年10月の一部業務委託に向けて準備を進めている。

また図書館は、サービスの維持向上と継続的な運営を目的として、サービス業務や書架や書庫の管理業務等をNPO法人本途人舎に4月から一部業務の委託をした。



## Topic 5

### ベトナム経済視察など

昨年10月ベトナムに進出した市内外の企業視察、国際工業展などの経済視察を行う。またホーチミン市工科大学と連携に関する覚書を締結した。

同10月、経産省及び日本貿易振興機構より外国籍企業誘致支援を受ける「対日直接投資サポートプログラム」の24都市に認定される。

今後は、外国籍企業を含めた企業誘致の推進を図り、若者の働き場所の確保による移住定住に繋げていきたい。



## Topic 7

### 教育環境の整備

長期学校改築計画について、検討会からの提言を受け、学校改築及び再編を進める上での基本的な考え方や取り組みの進め方を定めた「小諸市学校改築・再編基本方針」を11月に公表。3月から具体的な審議を行う学校教育審議会をスタートした。

また、老朽化が著しく進み早急な対応が必要な芦原保育園と中央保育園の再構築に関する審議会からの報告書を受け、南城公園に統合した保育園を建設することを決定した。

また12月には野岸小学校の耐震化工事が竣工を迎えた。

今年度は小中学校などのエアコン設置、ICT教育の環境整備を予定。

